

明清佛教史研究序說

長谷部幽蹊著

新文豐出版公司印行

49.3
177

+++++
✧ 長谷部幽蹊 著 ✧
+++++

XX
✧ 明清佛教史研究序說 ✧
XX



中華民國六十八年三月

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
✧ 新文豐出版公司印行 ✧
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

W468/18

中華民國六十八年二月二十七日 初版印刷
中華民國六十八年三月一日 初版發行

* 版權所有 *
* 請勿翻印 *

明清佛教史研究序說

精裝一冊 定價新臺幣四〇〇元整

著 者：長 谷 部 幽 蹊

出版者：新 文 豐 出 版 公 司

局版台業字第〇六四九號

承印者：新 文 化 彩 色 印 書 館

發行人：劉 修 橋

發行所：臺 北 市 雙 園 街 九 十 六 號

營業處：臺 北 市 羅 斯 福 路 一 段 二 十 號

序 文

これまで「禪宗史」の題目の下に優れた労作が先學によつて公けにされており、われわれ後學が禪の源流を探る上に、またさらに研究を進めていく上に、いわば羅針盤の役割を果たしてくれている。しかしながらその多くは唐宋期に詳しく、元以降、とくに明清時代に至つては、見るべきものなしとの理由で、ごく僅かの紙数がこれに與えられているに過ぎない。尤もただ禪宗史だけに限らず、古代・中世に精しく、近世以降に疎であるのは、通史類の敘述に共通してみられる傾向でもある。また學部において、佛教史概説という名の下に行われる講義でも、近代にまで説き及ぶことは寧ろ稀な例外に屬し、現行の制度下では、二、三年連續して同一テーマの下に講義がなされることは少いから、學徒は全體の流れを把握することができないまま、課程を修了するという事にもなる。過去の経験から、賛同の意を表して下さる方も恐らく少くないでろう。

且つて大學院に在籍していた頃、明、清時代の禪が等閑に附せられているのをいささか嫌ひなく感じて、この兩時付の研究に手を染めようとしたことがあつた。しかし適當な手引書もほとんど見當らず、この時代の禪を專攻する先輩の指導助言も得られぬまま、遂に何等の成果を収めることもなくして終つた。そうした経緯から、大學院の課程修了時に、その後の研究題目を届け出るに際して、「元・明・清時代における禪宗史研究」としてその後の研究課題として自らに課したのであつた。爾來星霜しばしば移つて十指の數を遙かに越え、頭白を加えるに至つたが、生來の怠惰に加え、能力の不足のため、荏苒として貴重な歳月を無爲に過ごしてしまつた。顧みて慚愧に耐えない。けだしこれらの時代の禪の研究は筆者にとつて長年の懸案であつたわけである。たとえそれが世に言われる如く、禪の衰頹期であるにもせよ、「懸系の如し」と時に危ぶまれながらも、禪の名の下に法燈を傳え、命脈を保ち續けてきた以上、通史の中に正當に位置づけられるべきであり、見るべき價值なし、として、後尾を殆んど空白に委し、後世の人びとをして龍頭蛇尾の評を恣にさせるのは忍び難いところであり、怠慢の謗りも免れ得ないであらう。

數年前から漸くこれらの時代の研究に着手することができ、埋没していた『祖燈大統』を發掘し紹介する機會にも恵まれた。その間、明清時代についての局部的な研究の小論を發表しながら、基礎的な資料整理の仕事に着手した。

たまたま昭和五十三年の春、愛知學院大學當局の特別の計らいにより、在外研修員の一人として國立臺灣大學歷史學研究所で専ら書策に親しむ時間を與えられた。資料の整理もほぼ終り成稿をみたので、茶話の砌り、拙稿を同學の諸兄の閱覽に供し、批評を乞うたことがあつたが、圖らずもよき人の勸説と支援を得て、出版の事が即決した。小論はこの地で脱稿したので、本邦刊の關係論文に接する機會に恵まれず、論究推敲も不十分で、直ちに梓に附することは憚られたのであるが、しかし、舊漢字の活字が豊富なこと、校正のための時間的余裕があること、さらにこの種の繁雜で費用の嵩む作業は、今となつてはこの地でなければできないことなどを考え合せ、敢えて出版に踏み切ることにした。もとより見聞疎漏にして錯誤紕謬も少しとしないであらう。ただ幾分か稀少價值があることを以て自らの慰めとしている。多少とも學者の研究に資するところがあれば、幸いこれに過るはない。ご叱正を賜らんことを切望する次第である。

既に先學によつて指摘されているところであるが、これらの時代に關しては、禪とその余の諸宗とを判然區別し難く、いわば折衷的な諸宗混雜の形態を具えた佛教が行われていたことが知られている。そこで題目にも敢えて禪を冠することを止め、ただ「明清佛教史」としたのである。従つてそれは狹義の禪以外の諸宗を網羅したことを意味するものではない。禪というも即ち中らず、淨と稱するもなお中らずという次第で、結局佛教に落着いたのであつて、敢えて羊頭を掲げて狗肉を賣るの舉に出ずるものではないことを予めお断りしておきたい。しかしこの時代の佛教が、融會的な性格のものであつたからこそ、禪以外の諸流も自らこの中に包攝される結果ともなる。その點から佛教と稱しても不當ではないであらう。そこに所謂「純禪」と呼ばれる時代のそれとは同日に談じ得ない事情がある。

なお今回の研修に際して、國立臺灣大學當局は、東北邊境史研究の權威として盛名を馳せた故姚從吾教授紀念室を開放され、圖書の貸出その他、種種便宜を與えられ、好遇を忝うした。ここに兩大學當局に對し、謹んで感謝の微忱を表するとともに、この小論を研修報告の一部として提出することで、僅かに責めを填ぎ愛顧に酬いたいと思う。

その間多くの先輩・同學の各位に、直接間接お世話になり、研究のため配慮を賜つた。ここでは特に研究員として受入れて頂くについて格別お骨折り頂いた國立臺灣大學の王德毅教授、生活面まで細く氣を使つて面倒をみて下さつた國立政治大學國際關係研究所の楊合義先生のお二方の名のみ舉げることをお許し頂きたい。異郷の地において兩先生が寄せられた友情は身に泌みて嬉しく、いまさらながら四海同胞の思いを深くしたものである。楊先生は繁忙の身であるにも拘らず、特に時間を割いて凡例を中國語に譯して下さつた。重ねてのご好意には言うべき言葉を知らない。

現時點では研究の骨組みが出来たに過ぎず、本書の刊行は、百里の道程において、最初の一里塚に第一步を印した程度のことである。牛歩の如く遅遅たるものではあるが、絶えず精進を續けたいと念じつつ之を識す。願くば導引を賜わらんことを。

臺北の寓居にて。

目 録

序 文	1 頁
-----	-----

第一部

内容構成の概略	4 頁
明清佛教研究基礎資料（凡例）	7 頁
僧傳要目一覧	10 頁
諸本考異	169 頁
四角號碼師僧名索引	172 頁
山名寺名索引並びに解説	200 頁

第二部

1 師僧の本貫について	309 頁
2 本貫の地名表記をめぐって	316 頁
3 師僧の所住地について	324 頁
4 寺刹の所在の表記をめぐって	326 頁
5 本貫と所住地の関連について	330 頁
6 明代における教團の動向	344 頁
7 明代の法系に関する異説と清代への影響	360 頁

餘 論

歴史地理的研究の要について	365 頁
---------------	-------

附 録

参考書目	367 頁
英文凡例	371 頁
英文目次	372 頁

内容構成の概略

本書の資料篇は、合計 21 種の燈録類に収載されている僧傳の中から、明代の初期に始まり、清代の中葉に及ぶ時期に活躍した 2778 名の師僧について、下掲のような項目の下に主要な事項を摘記し整理したものである。その年代は 13 世紀末から 18 世紀後半に達している。（但し 2778 の中には若干重複があるから實數ではない。）

まず最初に、検索の便を考慮して通番を附し、道號、法諱・別號等を挙げ、生歿年・世壽・法臘・主に在る所住の寺刹名を記し、さらに本貫、塔所等について順次並記した。また世代數は、それぞれの燈書の獨自な表記法に従つて六種を挙げた。但し『祖燈大統』の例に倣い、少林下の世代は全體を通して他と並舉したから、各師僧が、初祖菩提達摩から何世に當り、大鑑下その他、各燈録が採用する表記法では第何世に相當するかが、一目にして瞭然讀みとれるような仕組になつてゐる。

燈録類には寺名や本貫等がごく簡略に、しかもしばしば古稱を以つて記載されていることがあるから、これに近代の稱呼を附記し、照合に便ならしめた。寺名に關しては、索引を兼ねて、古今對照表を別出した。次いで別に地名考察の一項を設け、使用例の特長、を挙げ大まかな分類をなし、不明な個所を指摘し、問題點について言及することにした。それらの記述からも窺い知られるように、燈録の地名表記は煩簡區區、且つ不統一であり、疎略に過ぎるため所在を確認できないものが少くない。ここには、彼此考較して、一應妥當と思われるものを挙げておいたが、地・山・寺名には類似したものが多くあり紛らわしいから、錯誤あるを免れないであろう。ただ少くとも現在位置を知る上に一つの手掛りを提供し、研究を進める上に多少とも役立つであろうことを願つて息まないものである。原資料に、州名乃至府名だけしか記されていない場合は、止むを得ず治所を挙げることにした。従つてそれが、實際の地點と完全に合致するとは必ずしも斷定できない。原典の記載に粗漏な點があり、それ以上知る術がない場合もあつて、この種の作業を進めるのに自ら制限もあるが、逐次手を加え、より確かな依り所が提供できるようにしたいと考えている。大方の博學の士の御示教を切望する。以下燈録の記載例から、特徴のある部分を拾ひ出し整理しておきたい。

I 本貫について

- 1 楚湘某とか蜀の某氏というように、極めて漠然と廣い地域名のみ挙げるもの。111 楚湘郭氏。1934 蜀余氏など。
- 2 郷村など、縣より小さい行政区畫單位、ごく狭い場所の名稱まで、あるいはそれのみ記載するもの、後者の場合、特に比定に困難を感ずることが多い。799 東歐磐石衛千戸。494 秋林。
- 3 楚・越・渝など、當該師傳が編述された時點において、既に公けには使用されなくなつてゐた地名を、古くからの慣例に従つて、あるいは文章に雅趣を副えるために用いている例。その場合、上に古字を冠することがよくある。931 楚。359 越之蕭山。841 閩陳氏。851 古渝昌州。
- 4 萬人周知のある場所を基點として、またその方角を東西南北によつて漠然と指示する場合。191 東魯張氏。346 東晉。672 川北廣安任氏。1505 西蜀李氏。

5. 主たる所住の寺刹と本貫よが同一地域内にある場合，しばしば本郡，郡（之）本府，（本）州，本衛，本邑，本境などと記する。125 本郡趙氏。142 郡苑氏。2218 本府鄭氏。1276 本州朱氏。2536 本衛劉氏。225 本邑張氏。2129 本境洪氏。
6. 河川，湖江，溪水等をもつて所在を表わすもの。この場合は，かなり擴がりのある地域を指すと考之られる。2020 琴川。1918 當湖。1650 浣溪。1721 明之慈水等。但し縣名で類似のものも少くない。金川（縣），貴溪（縣），秀水（縣）。
7. 地名の一部をとつて連結した複合形式のもの。楚黃遊氏。
8. 本貫を欠き，氏姓のみ録するもの。127 趙氏。
9. 本貫・氏姓ともに記載されていないもの。8，以下多數。ということになる。何れにしても大部分の燈書が，本貫については，ごく大まかな所在を示しているに留まり，わが國の戸籍表記のように詳細には書いてないのが普通である。

Ⅱ 寺刹について

寺刹の所在が，府名，縣名，山名，寺名の順に整然と記載されていれば，検索もよほど容易であろうが，そのような例は寧ろ稀であるといつてよい。224 保寧府廣元（縣）漢王山實相（寺）。大部分はごく簡略に記されているから，寺刹についても，現在のどの地點に當るか照合が困難であることが多い。その時代に生きた人びとにとつては，自明のことであつたから，ことさら詳記する必要もなかつたのであろうが，時を距てた今日，しかも異邦の者にとつて，燈錄の寺刹表記は必ずしも充分とはいえないのであつて，よほど著名な名山大刹でない限り，その所在地の比定は決して容易ではない。寺刹には興廢があり，またどの時代についても通志，方志の類が完備しているとは限らないからである。寺刹の所在を明確にすることは労多くして功少き事に屬するから，こうした事に手を染める者は少かつた。白巖淨符の『祖燈大統』の如きは，稀な例外といつてよいであろう。地・山名と同様に，寺名にも類似したものが各地にあるから，記載の簡なるものは現在地點との同一性を確認するのは至難の事である。例之ば北京觀音と記されてあつても，北京には，德勝門の南，德勝橋東南に觀音寺があることが知られ，右安門外にも同名の寺があり，他に觀音庵と稱するものも二、三あることが判る。師傳，語錄等について逐一詳細に當り，個別的に行動の追跡調査をすればある程度まで明かにすることができようが，ここに收録した三千に近い師僧の全體について，點檢確認するのは容易ではない。しかし出来る限り，正確を期して，精細に検討を試みたつもりである。同名のものがある時は併記し，不明確なものについては～か，と記して疑義あることを示した。因みに今日，わが國の禪刹の多くは山名と寺名とを別個に有し，平坦地にあつても寺名の上に山名を冠するのが慣例となつているが，古く中國では，それが本來の，オリジナルな形なのであろうが，山名と寺名とが合致する例が少くない。（2307 金粟）その場合，山名は省いて書かれないことがある。また同一山内に多しの寺刹があれば，山名を共有することになり，そのうち特に顯れた寺刹が山名を代表することも稀ではない。例えば八峰（山）とだけ記されている時，安徽省太平府の廣善寺を指すが如きがそれである。次に燈錄における寺名記載例の若干を分類して表示しておくことにする。

- 1 地名・山名・寺名。898 蘄州西河白雲山廣教（寺）。2737 潮州府鳳棲（峽）孝禪（寺）。
- 2 地名・山名。358 衢州南華山。896 瑞州黃檗。

3 地名・寺名。294 嘉興府祇園。874 桐郷（縣）寂照（寺）。

4 地名のみ。33 陝府。1706 塩官。

5 山名のみ。448 獨峰。907 南嶽。

6 寺名のみ。113 靈隱。649 五磊。

なお資料として使用した續藏經所收の燈錄相互の文字の出入、明かに誤植と目されるもの、検討を要する點などについては、考異の項に取上げて論及し、最後に僧名索引を附した。青原・南嶽の別、師匠名、代數の見當がつけば索引を使用しなくても検索は比較的容易であるが、能率の點から考えればやはり索引は有用なものである。ここでは諸橋『大漢和辭典』所收の四角號碼方式を採用した。まず道號の第一字目を表わす番號を表記し、次に號・法諱・別號を挙げ、次に各師僧の固有番號を附した。最初の一字が同じ場合は通番の順序に従つて配列した。二字目以下を四角號碼の順にするより、その方が検索に便であると考えたからである。

各論ではこの資料から読みとられる若干の問題について卑見を述べた。師傳には本貫、所住地等が記載されているのが例であるが、それらの地域別分布状態を調査し、また世代別に南嶽・青原兩系の教線發展状況を概観し、本貫や所住の寺刹の地名表記の仕方に関する疑義を提出し、所在を確認して近代の名稱に置き換える作業を進める際に遭遇した幾つかの問題點を列挙した。從來史地的な觀點からの究明も佛教史研究においては余り重きを置かれていなかった観があるが、基礎的な研究には欠くべからざるものである。現段階では未だ多くの疑點が残されているから、今後この種の調査研究を推し進めていく上に有用と思われる資料を卷末に列挙し、以て自らの備忘とした。5においては釋教に関する法令の條文を通して、明室の佛教統制の經過について考え、佛教教團が、全體として直面した、そして解決を迫られた問題がどのようなものであつたかを明かにしようと努めた。次いで佛寺の復修状況を地志の記載に基いて調査整理した。そこで、例えば佛寺修建の禁制とその實際とを比較してみれば建前と現實との一致乃至乖離が判然するであろう。6では先年發表した一連の法系や傳についての疑點に関する論文において解明し得なかつた部分を、新たに入手した資料に基いて論及した。ここに漸くある程度の結着をみたつもりである。

以上の小論は、明清佛教教團の周邊的部分に係わる問題考察で、その外廓がおぼろげながら明かになつてきたように思われる。師傳や教理思想についての立ち入つた詮索は、ここでの當面の課題ではない。これらは決して興味を惹く問題とはいえないが、九重の樓閣を築き上げるためには、まず退屈な基礎固めの作業から始めなければならであろう。

且つてこの時期の佛教について、思いつくまま若干の論文を草したことがあるが、その間、基礎的な資料の調査編成と、全體的な展望の上に立つて、個個の問題の位置づけをすることの必要を痛切に感じた。本書は別に準備しつつある明清佛教史研究の序章に相當するものといつてよい。題して『明清佛教史研究序説』とした所以である。明續、又續所收の諸師については、機會を改めて究明したいと考えている。

凡 例

(1)『明清佛教史研究序説』（以下本書と略稱）の基礎資料の部に、出典として挙げた諸書の具稱は次の通りである。

略 號	書 名	冊字續藏冊數	略 號	書 名	冊字續藏冊數
增	增集續傳燈錄	142	五	五燈會元續略	138
嚴	五燈嚴統	139	繼	繼燈錄	147
補	補續高僧傳	134	僧	南宋元明禪林僧寶傳	137
摘	高僧摘要	148	存	續燈存稿	145
捷	佛祖正傳古今捷錄	146	大	祖燈大統	
單	南嶽單傳記	146	指	續指月錄	143
錦	錦江禪燈	145	徑	徑石滴乳	117
正	續燈正統	144	全	五燈全書	140～42
黔	黔南會燈錄	145	掇	掇黑豆集	145
源	正源略集	145	影	佛祖正宗道影（増は増訂本）	
（建）	建州弘釋錄	147		（續藏は中國佛教會影印本による。）	

(2)検索の便を考慮して、各師僧にそれぞれ固有番號を附した。註記、引用その他すべてこの番號による。

(3)世代表記の仕方は燈錄により多少の相違が認められる。本書所收の諸書が採用する世代の表記法は次の通りである。

世代表記	・ 燈 錄 略 號	省略形
釋 尊 下	單・影	釋
少 林 下	大	少
大 鑑 下	増・存・指・錦・正・掇	大
南 嶽 下	五・嚴・繼・捷・全・源	南
青 原 下		青
臨 濟 下	黔	臨
雲 門 下		雲
徑 山 下	徑	徑

（略號の詳細は上掲の表参照）

(4)各世代數の前にその省略形を附した。（右端）なお資料配列の上では『佛祖正宗道影』（釋尊下）が最後にくることになるが、時代順に組み變えてある。

(5)『正源略集』には宗鏡下、『黔南會燈錄』には雲門下の世代も挙げられているが、數が少いこともあり、また煩を避けるため、ともに暫くこれを青原下に含め、數字をバレーン（括弧）で圍んだ。

(6)『祖燈大統』の例に倣つて、少林下の世代數を全體に亘つて附記し、他の世代との照合の便を圖つた。但し該書に含まれていない新しい世代にはバレーンを附した。（なお通番 320 以下括弧省略）南嶽下の世代の記載がなく臨濟下、徑山下のそれのみ挙げるものについては「南」を省いた。

(7)居士については所住地の項に地位、官職名などを記入した。

(8)尼僧は（尼）とした。

(9)索引は、師名、山名、寺名など、すべて四角號碼法によつた。師名索引には、號・諱等の後に通番を附した。通番は將來電算機による處理に備えてのひとつの試みであり準備である。

(10)考異、地名考證など、すべて通番によつて檢索照合できるようにした。

(11)地名には近代の行政區劃に基づく稱呼を附記した。但し府名は大凡の位置を確認する上に便利であるから、括弧内に記入した。

(12)『祖燈大統』は、瑤璫寺仰山房流行の康熙刊本による。

『佛祖正宗道影』は、清光緒六年の刊本による。なお虛雲重輯本をも併せ參照した。　　後者は影（増）と略記。

出典の一部に「建」とあるのは『建州弘釋錄』の關係部分を挿入したことを示す。草稿作製の段階で、便宜上、道影の空白部を借りて記入したため、そのまま最後部に置かれることになった。

(13)人名、寺名、地名等は動かし難い既成の事實であるから、これらについてはできるだけ原文に忠實に、古形を存することにつとめた。（俗字、印刷用の特殊な異體の一部を除く）解説の部は當用漢字を使用する豫定であつたが、印刷の都合ですべて舊體によらざるを得なかつた。

附記

『新續高僧傳』は、明・清關係の資料を多く含んではいるが、敘述形式が上掲の諸書と異つているため、齊合を缺くことになるのを怖れ、ここには收載しなかつた。

凡 例

1. 明清佛教史研究序說之基礎資料，爲一種索引（以下簡稱本書），據出典而舉出之資料，其具體名稱請參照日文凡例第一項。
2. 爲便於查閱計，每個師僧均附上固定號碼。註釋和引用等均依此號碼。
3. 世代之表示方法，因傳燈錄而有異。本書所收諸書，其所採用之世代表示方法，計有下列八種：

世代表示	燈書簡稱
釋尊下	單・影
少林下	大
大鑑下	增・存・指・錦・正・指
南嶽下 } 青原下 }	五・嚴・繼・捷・全・源
臨濟下 } 雲門下 }	黔
徑山下	徑

（略號詳情，請參照日文凡例第一項）

4. 各世代數之前，均用上述簡稱。其次在資料編列上，「佛祖正宗道影」之釋尊下，本應放在最後，但本書則改按世代順序排列。
 5. 「正源略集」之宗鏡下，其「黔南會燈錄」內雖有世代之記載，但因數目不多，又爲避免煩瑣起見，將暫編列於青原下，其數字則加上括弧以示區別。
 6. 本書做「祖燈大統」之例，將少林下之世代數全部附記，以便與其他世代查核對照之用。但關於該書所未收錄者，則記其相當之世代數，並加上括弧。未見南嶽下代數之記載，而列有臨濟下、徑山下之代數者，則略去「南」字。
 7. 至於居士方面，則於所在地項內記入其地位及官職名等。
 8. 師僧名索引之師名・山名・寺名等，均照四角號碼編列。師名索引內，於號、諱之後，附記總號碼，以備將來利用電腦處理時之需。
 9. 考異，地名考證等，均用總號碼，可供查對。
 10. 地名附記現代地名，但府名對確認所在地較爲方便，故加括弧注在其下。
 11. 「祖燈大統」，以瑪瑙寺仰山房流行之康熙版本爲依據。「佛祖正宗道影」，據清光緒六年之版本。再者，虛雲重輯本亦曾參考。
出典項內偶可看到「建」字，此係表示所插入的「建州弘釋錄」部份資料之故。今爲權宜之計，特置於最後。
 12. 由於採自原始資料，故以正體漢字表記之。後人恣意簡化，實不足效尤。
- 附記：「新續高僧傳」，含有不少明清關係資料，唯因敘述形式與上述諸書有異，深恐妨礙體例之完整，故予割愛。

明清佛教史研究基礎資料

僧傳要目一覽

少林30世

通番	道號法諱 別號 生年 - 寂年 世壽 · 法臘	師名	主要住山寺利 爾餘歷住寺利	本貫 / 姓氏	塔所	世代 釋尊下 少林下 大鑑下 南嶽下 青原下 臨濟下 徑山下	師傳收錄燈書 (略號) 卷 · 紙數
1	潔庵正映 - 1426	巽中謙	江寧府靈谷 泉州開元 福州雪峰崇聖寺	撫州金谿 / 江 西(撫州府) 金谿縣 / 洪氏		少30 大24 南	補22·167d 大87· 5b 正16·340c
2	立中成 1361 - 1443 83 ·	祖方聯	杭州府普明 杭州慈光寺	杭州府)錢塘 縣一杭縣 / 孫 氏	普明寺	少30 大24 南23	五4·467a 嚴22·492a 繼5·398a 存8·100d 大87· 6b 指8·458a 正16·341a 全57·115a
3	照庵宗靜 1372 - 1447 76 · 60	祖方聯	杭州府淨慈 護國 寧波府雪 寶 彌陀	杭州府 / 浙江 (杭州府) / 高氏	藕華祖 丘	少30 大24 南23	存8·100d 大87· 7a 指8·458a 正16·341a 全57·115a
4	敬中普莊 呆庵 1346 - 1403 58 · 45	了堂一	杭州府徑山 撫州北禪 撫州 雲居	台州仙居 / 浙 州(台州府) 仙居縣 / 袁氏	凌霄之 陽	少30 大24 南23	增6·452b 五6·487a 嚴23·494c 繼5·400c 補18·150b 僧13·372a 存8·97b 大87· 7b 指8·456c 正26·395a 全58·120c 指2·436d
5	元明原良	別源源	寧波府天童 台州瑞巖	寧海 / 浙江(台 州府)寧海 縣 / 周氏		少30 大24 南23	五6·487a 嚴23·494c 繼5·400b 存8·98d 大87· 12b 指8·456b 正26·396b 全58·121d
6	見心來復 70 ·	南楚悅	寧波府慈谿定水 鄞州天寧 杭州 靈隱	南昌豐城 / 江 西(南昌府) 豐城縣 / 王氏		少30 大24 南23	增6·453a 五6·487d 嚴23·495a 繼5·401a 補25·187b 存8·99a 大87· 13a 指8·457a 正26·396c 全58·122a
7	無旨可授 休庵 69 · 50	孤朗明	杭州府淨慈 台州安聖·隆恩 真如·龍華 杭 州中天竺·台州 大雄山	台州臨海 / 浙 江(台州府) 臨海縣 / 李氏	龍華寺	少30 大24 南23	五6·488a 嚴23·495a 繼5·401b 補15·132c 存8·100c 大87·14 a 指8·457d 正26·396d 全58·123d
8	覺初慧恩	季中信	溫州府江心 建業聖泉 永嘉 雅山			少30 大24 南23	存8·98 d 大87·14 b 指8·457a 正26·397a 全58·122a
9	千巖元長 無明 1284 - 1357 74 · 56	中峰本	金華府義烏伏龍 山聖壽寺 杭州天龍之東庵	越之蕭山 / 浙 江(紹興府) 蕭山縣 / 董氏	青松庵	釋57 少30 大24 南23	增6·454a 五6·485b 嚴23·492c 繼5·398a 補13·118c 僧11·359c 存8·93b 捷·442a 大87· 15a 單·471c 指8·454a 正26·397a 全58·116a 指2·434a 影2·36
10	天如惟則	中峰本	蘇州府獅子林	吉安永新(廬)	水西原	少30 大24	增6·454c 五6·485d 嚴23·493a 繼5·398c

				陵)，江西（吉安府）永新縣 / 譚氏		大 24 南 23	存 8. 95a 大 88. 1a 指 8.455a 正 26.398c 全 58.117d 指 2.435c 影 2. 35
11	古先印原 80 . 67	中峰本	日本國建長 日本甲州慧林・ 萬壽 淨智 長壽	日本相州，神奈川縣 / 藤氏		少 30 大 24 南 23	五 6.486a 殿 23.493c 繼 5.399a 存 8. 96a 大 88. 5a 指 8.455c 正 26.399d 全 58.118d
12	念庵圓護 玉腕	中峰本	雲南蒼山	大理 雲南（大理府）大理縣		少 30 南 23	全 58.119a
13	無照玄鑑 （首座）	中峰本	安寧太華山		本 山	少 30 大 24 南 23	大（目・下）58a 正（目）全 58.119b
14	蓮峯崇照 - 1342	中峰本	晉寧盤龍寺	晉寧，雲南（雲南府）晉寧縣 / 段氏		少 30 南 23	全 58.119c
15	九峯壽 72.（首座）	中峰本				少 30 南 23	殿 23.493d
16	古梅正友 1285 - 1352 68 .	絕學誠	建寧府高仰山 南浦天心寺 （闍） 建陽大覺妙智	貴溪，江西（廣信府）貴溪縣 / 丁（于）氏	本 山 （鳳山）	少 30 大 24 南 23	五 6.486b 殿 23.494a 繼 5.399b 僧 10.359a 存 8. 96c 大 88. 6a 指 8.455d 正 26.400a 全 58.119c
17	德隱會仁 64 . 50	了然義	杭州府淨慈 金華西峰淨土 婺州智者寺	婺之蘭谿，浙江（金華府）蘭谿縣 / 趙氏		少 30 大 24 南 23	五 6.486c 殿 23.494a 繼 5.399c 補 15.132d 存 8. 96d 大 88. 7a 指 8.456a 正 26.400b 全 58.119d
18	止庵德祥	平山林	杭州府	本郡（仁和）浙江（杭州府）仁和縣→杭縣		少 30 大 24 南 23	增 6.454d 五 6.486c 殿 23.494a 補 25.184c 存 8. 96d 大 88. 7b 指 8.456a 正 26.400b 全 58.120a
19	易道夷簡 同庵	平山林	江寧府天界 杭州南屏 淨慈			少 30 大 24 南 23	存 8. 96d 大 88. 7b 指 8.456a 正 26.400b 全 58.120a
20	懶雲智安	天真則	湖州府弁山白蓮 寺 海昌淨明（妙） 寺 淨慈 南極	嘉興，浙江（嘉興府）嘉興縣 / 沈氏	弁山之 南阡	少 30 大 24 南 23	五 6.486d 殿 23.494b 繼 5.399d 存 8. 97a 大 88. 8a 指 8.456a 正 26.400c 全 58.120a
21	白雲智度 1304 - 1370 67 . 53（ 52）	無見觀	處州府白雲山福 林 杭州虎跑 華頂 ，龍泉普慈 茆 山 武峰	處之麗水，浙江（處州府）麗水縣 / 吳氏	院 西	少 30 大 24 南 23 徑 4	五 6.486d 殿 23.494b 繼 5.399d 補 15.133a 僧 12.366c 存 8. 97a 大 88. 8b 指 8.456b 徑 1.461a 正 26.400c 全 58.120b
22	無作文述 - 1313	平石砥	寧波府大梅護聖 鳳躍山等慈寺 福昌 花嶼湖	明之慈溪，浙江（寧波府）慈溪縣		少 30 大 24 南 23	大 88. 9a 正 26.400d
23	無涯道永 非幻	傑峰愚	江寧府靈谷寺	衢之西安浮石 浙江（衢州府）衢縣東北五里 / 吳氏		少 30 大 24 南 23	五 4.467a 殿 22.492a 繼 5.401c 補 15.132a 存 8.101b 大 88. 9b 指 8.458b 正 8.297c

							全 57.115c
24	太初啓原 - 1407	傑峰愚	溫州府護龍 廣度 羅陽三峰 寺	日本國 / 源氏 (張氏)	南院 (院南)	少 30 大 24 南 23	五 4.467a 殿 22.492b 繼 5.401c 補 25.187a 存 8.101a 大 88.10a 指 8.458a 正 8.297c 全 57.115b
25	圓極居頂 (玄)極圓庵 - 1404	恕中愷	應天府靈谷 鄧之翠山 金華 雙林	台州黃巖, 浙江 (台州府) 黃巖縣 / 陳氏	翠山空 寄塔右	少 30 大 24 南 23	增 6.452c 大 (目・下) .57a
26	穆庵文康	南堂欲	鎮江金山	慈溪, 浙江 (寧波府) 慈溪縣		少 30 大 24 南 23	增 6.452d 大 (目・下) .57a
27 註	天影文煥 本光	南堂欲	蘇州靈巖	溫之林氏, 浙江 (溫州府) 永嘉縣 / 林氏		少 30 大 24 南 23	增 6.453a
28	夢觀大圭	佛杲炤 (照)	泉州開元	晉江, 福建 (泉州府) 晉江縣 / 廖氏	西山	少 30 大 24 南 23	繼 5.400a 大 (目・下) .58b
29	蘭江清淺	曇芳忠	崑山薦巖 常州翠微 湖州 顯慈	天台, 浙江 (台州府) 天台縣		少 30 大 24 南 23	增 6.453c
30	則中 度	鏡堂古	平湖			少 30 大 24 徑 4	大 (目・下) .58b 徑 1.461d 正 (目)
31	二仰圓欽	小庵密	二仰	禾之秀水, 浙江 (嘉興府秀水縣) 嘉興縣		少 30 大 24 南	正 16.340c
32	凝然了改 1335 - 1421 87 .	松庭嚴	河南府嵩山少室 二祖庵	嵩陽金店, 湖北 (武昌府) 嵩陽縣 / 任氏		釋 57 少 30 大 29 青 28	五 1.433d 繼 1.365c 存 11.132a 大 88.11a 指 13.482b 正 37.460d 全 61.159d 影 3.46

少林 3 1 世

33 註	萬峯時蔚 1303 - 1381 79 . 60(5 59)	千巖長	蘇州府鄧尉山聖 恩 蘭溪之嵩山	溫州樂清, 浙江 (溫州府) 樂清縣 / 金氏	西岡 (湔槃山) 永光塔	釋 58 少 31 大 25 南 24	增 6.455a 五 6.488a 殿 23.495b 繼 6.401d 補 15.134a 僧 12.364d 存 9.101c 捷 .442b 大 88.12a 單 .472a 指 9.460b 正 27.401a 全 58.124a 指 3.437c 影 2.37
34	唯庵德然 - 1388	千巖長	松江府華亭松隱 義烏伏龍聖壽寺	郡之, 江蘇 (松江府華亭縣) 松江縣 / 張氏	松 隱	少 31 大 25 南 24	增 6.455b 五 6.488b 殿 23.495d 繼 6.402b 補 25.186a 存 9.102b 大 88.14b 指 9.461d 正 27.401d 全 58.124d 指 3.438b
35	蘭室德馨 1303 - 1372 70 . 46	千巖長	金華府清隱 義烏伏龍聖壽寺	義烏, 浙江 (金華府) 義烏縣 / 方氏		少 31 大 25 南 24	補 15.134c 存 9.103b 大 88.17b 指 9.462d 正 27.402c 全 58.125d
36	無用守貴 水庵 1290 - 1361 72 . 55	千巖長	杭州府天龍 嘉禾	婺州浦江, 浙江 (金華府) 浦江縣 / 甄氏	天龍西 岡慈濟 塔院	少 31 大 25 南 24	五 6.488c 繼 6.402b 補 13.119b 存 9.102b 大 88.18a 指 9.461c 正 27.402d 全 58.124d

37	明 叟 昌 (庵主) - 1376	千巖長	金華府華山 浙江	浦江, 浙江 (金華府) 浦江縣		少 31 大 25 南 24	五 6.488d 嚴 23.496a 存 9.103c 大 88. 19a 正 27.402d 全 58.126a
38	宋 濂 (居士)	千巖長		金華, 浙江 (金華府) 金華縣		少 31 大 25 南	指 3.438a
39	般若法秀	千巖長	江寧府天王山般若院			少 31 大 25 南 24	補 15.134a 大 88. 19a 正 27.403a 全 58.126a
40	慈 舟 濟	古梅友	鎮江府金山			少 31 大 25 南 24	存 9.103c 大 88. 19b 正 27.403a 全 58.126b
41	一 峯 寧	古梅友				少 31 大 25 南 24	存 9.103d 大 88. 19b 指 9.463a 正 27.403a 全 58.126b
42	空 谷 景 隆 1392 - 1443 52 .	懶雲安	杭州府西湖修吉 山正傳塔院 湖州府碧巖 杭 州開元寺	姑蘇洞庭龜山 , 江蘇 (蘇州府) 吳縣西南 / 陳氏	正傳塔 院	少 31 大 25 南 24	五 6.488d 嚴 23.496b 繼 6.402c 存 9.103d 大 88. 20a 指 9.463a 正 27.403b 全 58.126b
43	古 拙 俊	白雲度	江寧府天界 南極 太平府繁 昌八峰山 東廬 (婁) 山	姑蘇松陵, 江 蘇 (蘇州府) 吳江縣	八峰山	少 31 大 25 南 24 徑 5	五 6.489a 嚴 23.496b 存 9.104a 大 88. 21b 指 9.463c 徑 1.461d 正 27.403c 全 58.126b
44	無 念 智 有	二仰欽	壽州	蜀之漢州, 四 川 (成都府) 廣漢縣		少 31 大 25 南	正 16.341b
45	俱 空 契 斌 1383 - 1452 70 .	凝然改	河南府嵩山少室	平陽垣曲, 山 西 (絳州) 新 絳縣 / 王氏	少林西 塢	釋 58 少 31 大 30 青 29	五 1.434a 繼 1.365d 存 11.132b 大 88. 22b 指 14.485c 正 37.461a 全 61.160a 指 3.439a 影 3. 47
46	鄭 州 福	凝然改				少 31 大 30 青 29	大 88. 24a 正 37.461b
47	古 潭 本 深 - 1430	凝然改	汝州風穴	山西絳州, 山 西 (絳州) 新 絳縣 / 張氏	開山沼 之壘西	少 31 大 30 青 29	大 88. 24a 正 37.461c

少林 3 2 世

48	海 舟 普 慈 1355 - 1450 96 . 74	萬峰蔚 (東明 岳)	杭州府東明 (湖州) 洞庭山	蘇州常熟, 江 蘇 (蘇州府) 常熟縣 / 錢氏	東明左 側	少 32 大 26 (28) 南 25 (27)	五 7.491d 嚴 23.498b 繼 6.405a 存 9.104d 捷 .442d 大 89. 1a 指 12.474a 正 27.404b 全 58.127c 指 3.440c
49	寶 藏 普 持	萬峰蔚	蘇州府鄧尉山聖 恩		高峰之 側	釋 59 少 32 大 26 南 25	五 6.489b 嚴 23.496c 存 9.104c 捷 .442c 大 89. 3a 單 .472b 指 10.465d 正 27.404a 全 58.127a 指 3.439a 影 2. 38
50	無 念 勝 學 1325 - 1404 80 .	萬峰蔚	武昌府九峰	隨州應山, 湖 北 (德安府) 應山縣 / 陳氏	師子巖	少 32 大 26 南 25	五 6.489b 嚴 23.496c 繼 6.402c 補 15.136a 存 9.104c 大 89. 3b 指 10.465d 正 27.404a 全 58.127b

51	果林榮	萬峰蔚				少 32 大 26 南 25	五 6.489b 嚴 23.496d 存 9.104d 大 89. 4b 指 10.466b 正 27.405a 全 58.127c
52	道安 1340 - 1416 77 .	唯庵然				少 32 大 26 南 25	補 25.186a 大 89. 4b 正 27.405a 全 58.129a
53	西竺本來 1355 - 1422 68 . 55	慈舟濟	建昌府新城壽昌 劍江壽聖寺 閩 之杉關福田寺	撫州崇仁，江 西（撫州府） 崇仁縣 / 裴氏	壽昌西 北禪基 嶺	少 32 大 26 南 25	嚴 23.496d 繼 6.402d 補 15.135a 存 9.105a 大 89. 5a 指 10.466b 正 27.405a 全 58.127d
54 註	無際明悟 （了）悟 蠶骨（月幻）	古拙俊	東普道林 （普州東林） 南京牛首寺	蜀·安岳，通 賢鎮，四川（ 潼川府）安岳 縣北四十里 / 莫氏		少 32 大 26 南 25 徑 6	五 6.489c 嚴 23.497a 繼 6.403a 補 19.160b 存 9.105a 大 89. 5b 指 10.467a 錦 8.303d 徑 1.462d 正 27.405b 全 58.128a
55 註	無念圓信 物外 1429 - 1473 45 .	古拙俊 （東林 悟）（ 月幻）	河南府伏牛山	金臺，河北（ 保定府）易縣 東南三十里 / 高氏		少 32 大 27 （26） 南 26 （25） 徑 7	五 6.491a 嚴 23.498a 繼 6.404b 存 10.125a 大 89. 6b 指 11.471b 徑 2.466c 正 27.405c 全 58.128c
56	性天如皎 70 .	古拙俊	江寧府祖堂幽棲 杭州虎跑 西杭	四明，浙江（ 寧波府）鄞縣 / 周氏	于庵	少 32 大 26 南 25 徑 6	補 15.135c 存 9.105c 大 89. 7b 指 10.467c 徑 1.464a 正 27.405d 全 58.128b
57	田素庵 （大士） （居士）	何密庵 （居士）	揚州府	江都，江蘇（ 揚州府）江都 縣		少 32 大 26 南 25 徑 6	五 6.489d 嚴 23.497b 繼 6.403b 存 9.105c 大 89. 8b 指 10.467c 徑 1.464a 正 27.406a 全 58.128c 拈 3.439b
58	慈化普庵	牧庵謙	江西袁州			少(32) 南 25	全 57.115d
59	荊山懷寶	無念有	荊山 終南山	渚宮，湖北（ 荊州府）江陵 縣城內		少(32) 大 26 南	正 16.341b
60	無方可從 1419 - 1482 64 . 40	俱空斌	河南府定國寺 菩提 少室山 鉤州觀音寺	洛陽，河南（ 河南府）洛陽 縣 / 許氏	少室祖 墳	釋 59 少 32 大 31 青 30	五 1.434a 存 11.132b 大 89. 8b 指 15.489a 正 37.461c 全 61.160b 影 3. 48

少林33世

61	寶峯明瑄 （智）瑄 - 1471	海舟慈 （金陵 慈） （翼善 慈）	江寧府高峰寺 金陵翼善	蘇之吳江，江 蘇（蘇州府） 吳江縣 / 范氏	東明寺 左（右） （翼善 寺左）	釋 62 少 33 大 29 南 28 （26）	五 7.496d 嚴 23.502c 存 9.112a 捷 .443a 大 89. 9b 單 .472d 指 13.481a 正 29.413a 全 59.137d 拈 3.442a 影 2. 41
62 註	虛白慧昱 1372 - 1441 70 . 55	寶藏持	杭州府安溪古道 山東明寺 天目之平山堂 湖南淨慈	楚（湖廣）， （丹陽） / 王 氏	安溪東 塢	釋 60 少 33 大 27 南 26	五 6.489d 嚴 23.497b 繼 6.403b 僧 12.365c 存 9.105d 捷 .442c 大 89. 10b 單 .472b 指 11.468d 正 28.406b 全 59.129b 拈 3.439c 影 2. 39